

業務部速報



No. 28

発行 19. 8. 22

JR東労組 業務部

「旅行業部門の今後の方向性」に関する

申6号

申し入れ(その2) 本日提出! ①

3月6日に会社から「駅」の変革と新たな顧客接点創り（旅行業部門の今後の方向性）について提案を受け、2回の解明交渉と1回の基本交渉を行ってきました。

JR発足以降、旅行業部門で働く組合員は、送客・収入目標の達成に向けて店舗ごとに販売促進を行ってきました。また、お客さまと直接会話をすることによって創られる安心感と信頼関係は、びゅうプラザで働く組合員が創りだしてきた貴重な財産です。そして、度重なる施策を担い、自社管内の鉄道利用促進を目指した観光流動づくりを VTS と共に現在も行っています。訪日外国人も年々増加し、『変革 2027』においてインバウンド戦略の推進が謳われ、旅行業部門は今後も重要な位置づけです。したがって、観光流動を創りだすために顧客接点型拠点の役割は重要であり、JR東日本グループとして VTS と共に創りだしていく必要があります。

私たちは、旅行業界を取り巻く環境の変化を受け止め、この間数多くの施策を実施してきました。しかし、提案以降団体交渉において、顧客接点型拠点の規模や業務内容、びゅう商品をオンライン販売に特化する過程と商品位置付けが明確になっていないことや、自らの働く場についての不安が払拭されていません。また、店舗販売で確保してきたびゅう商品等観光流動収入をどのように確保するのか明確になっていないことがあります。

したがって、JR東日本グループとして今後も観光流動を創造し、これまでの旅行業部門の努力に報い、新たな形態での旅行業部門に VTS と共にしっかりと踏み出していくために、申し入れを行います。

申し入れ項目の柱

【JR本体としての役割と旅行業収入の確保】

【雇用の確保】

【生活設計、本人希望】

【出向者の労働条件向上】

【2021 年度末までのスケジュール】

【2022 年度以降のスケジュール(顧客接点型拠点について)】

【2022 年度以降のスケジュール(オンライン販売について)】

具体的な項目は、
次号に掲載します

**数多くの施策を担い、苦勞してきた努力に報いるために
精力的に議論を行っていきます!!**